



# 森のなかま

2017年4月号

NO. 108 (継続253号)

事務所が移転して1年が経ちました

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明  
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

森林文化部会 第8回 森林文化講演会『日本の森林とシカ問題』開催される  
日時:2月5日(日) 場所:桜美林大学 PFC(プラネット淵野辺キャンパス)

## 《 森林文化部会 真貝 勝 11期 》

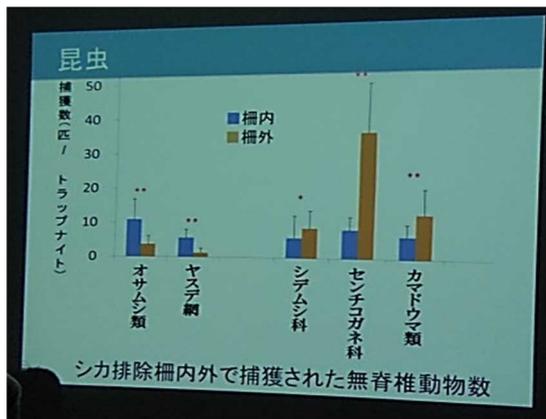


森林文化部会恒例の活動である森林文化講演会が桜美林大学淵野辺キャンパスにて、講師に高槻成紀氏(麻布大学いのち博物館上席学芸員)を迎え、2017年2月5日(日)に開催された。今回で8回を数える。インストラクターの会51名、一般22名、ECO-TOP3名、新聞記者1名で合計77名の参加があった。

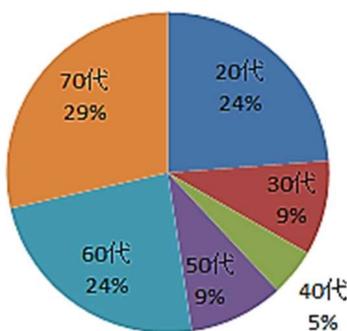
講演題目は、かながわ森林インストラクターの会のメンバーにとっては馴染みの深いシカ問題である。

講師の高槻氏は、①シカがいつごろから増え始めたか？②何で増えたか？③増えた結果どうなっているのか？に関して焦点をあて講演された。

シカの増加は、1990年以降に増え始め1990年後半には急増するに至ると共に、全国各地へと被害も拡大している。シカが増加した背景として、温暖化という気象現象(積雪量の減少)、ハンターの減少、森林伐採、牧場の増加、農業人口の減少等に関して調べてみたが、その傾向とシカの増加とは大きなタイムラグがあった。氏は、一番の要因として農山村の衰退(過疎化・高齢化と施業の減少)とシカの増加が関係していると主張した。1990年代になると農山村の過疎化が急速に進み、雑木林が利用されなくなり、シカと農地との接近が進んで、山地帯でひっそりと生き延びていたシカが徐々に数を増してきたとした。



## 《 一般年齢別構成 》



一方で、シカが増大した結果、シカの捕食による特定の植物の増加・減少がみられるのは周知のことである。このような直接被害の他に、植物を食料とする昆虫・鳥類の変化、シカのフンを分解する昆虫の増加、下草減少による土壌流出被害など間接被害についても言及された。

約2時間程の講演であったが、参加者からのアンケート結果では説明が非常に判りやすく、シカ問題の現状の理解が深まったとの意見が聞かれた。また、一般で20代の参加者の方も有り、シカ問題への関心の高さが伺えた。

(写真撮影:高橋 修氏 9期)